

# 学校における音楽科授業（歌唱）時の 新型コロナウイルス感染防止対策ガイドライン

## 1 日常の対策

### (1) 体調管理の徹底

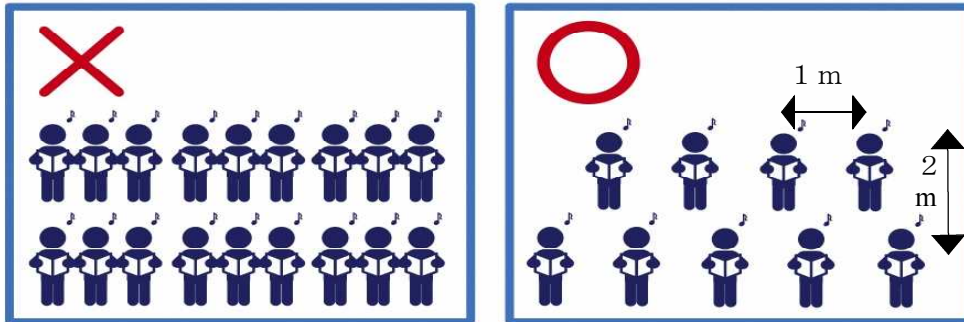
- ・以下に該当する項目に該当がないか、健康観察等で確認する。
  - ① 平熱を超える発熱（37.5℃以上）
  - ② 咳やのどの痛み等の風邪の症状
  - ③ だるさや息苦しさ
  - ④ 身体が重い、疲れやすい

### (2) 対策の周知

- ・音楽科授業で歌唱を伴う時の対策をあらかじめ児童と保護者に周知し、理解を得て活動を行う。

## 2 授業時の対策

- (1) 児童間の距離は、前後2m以上、左右1m以上確保する。
- (2) 整列する際は、同方向に向かって市松模様に並ぶ。向かい合う隊形は避ける。



- (3) 歌唱する際は、マスクを必ず着用する。  
※ フェイスシールドはマスクと併用することで効果を発揮するが、フェイスシールドのみの使用の場合、効果がないという研究結果もある。
- (4) 身体的な接触は行わない。
- (5) 咳エチケットを実践する。
- (6) 楽譜やプリント類の共有は避ける。
- (7) 連続した歌唱時間は 10分以内とし、水分補給、エアコンを使用による熱中症防止にも配慮する。

## 3 歌唱する場所、使用機器の対策

- (1) 窓と出入口は常時開放とし、換気を行う。
- (2) 椅子やピアノ、キーボード、CDプレーヤー等の共用機器は、使用後に毎回消毒を行う。
- (3) ピアノの消毒はアルコールを使用せず、専用のクリーナーを使用する。  
(参考：「ピアノの除菌方法」[http://yamaha.custhelp.com/app/answers/detail/a\\_id/1460](http://yamaha.custhelp.com/app/answers/detail/a_id/1460) )

## 4 その他

- (1) 校内での感染が疑われる児童が出た場合は、音楽科の授業はもとより、全教育活動において、児童の行動や活動についての情報提供が求められる。実施上の対策について明確にしておくことが大切である。
- (2) 対策が十分にできない場合や、校区内に感染者が発生した場合には、歌唱実施を見合わせる。

(監修)

市村 昇悦（しむら小児科クリニック院長）